

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490100308		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター桑名いずみ		
所在地	三重県桑名市大字和泉		
自己評価作成日	令和2年06月21日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyoSyCd=2490100308-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyoSyCd=2490100308-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和 3 年 8 月 24 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆつくり」を基本方針とし、入居者の皆さんが安心して生活が出来るように努めています。今年度より介護予防の一環として「シニアヨガ」・セラピー活動として「ガーデニングセラピー」や「ドックセラピー」を取り入れています。今後も介護予防活動に力を入れて行く予定です。新たな取り組みでは「あなたの夢を叶えます」プロジェクトを立ち上げ、入居者様及びご家族様の夢をスタッフ全員でサポートが出来るように進めていきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺には工場や倉庫が多く、また新興住宅や集合住宅などが混在する地域で、開設7年目を迎える。昨年からのコロナ禍で、地域交流・外出・面会・ボランティア団体の訪問などができなくなり、利用者の行動範囲が悉く制限された。その中でも職員が工夫を凝らして利用者の要望にできる限り応えようと支援をしている。今年度は管理者をはじめ職員の入れ替わりがあったが、新しく就任した管理者は、ゆったりとした生活の中で利用者・職員がなんでも話し合える関係づくりを目標にしていきたいと考えている。新たなメンバーで決意をもってまた一からの出直しと意気込みを感じさせる事業所で今後が期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関・職員休憩所に掲示し職員の目のつきやすいようにしている。新規採用者にはオリエンテーション時に説明を行っている。	職員の意見で作成した理念『人に対する思いやりを持ち、一人一人を尊重しながら寄り添い、日々の生活を支える』を掲示し、職員ミーティングでも確認し合い、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は「子供SOS」の指定となり協力させて頂いている。運営推進会議にも近所の方も参加して下さい。施設の消防訓練にも少人数ではあるがご近所の方の参加もある。	コロナ禍でほとんど地域交流はできていないが、日常の散歩で出会った住民と挨拶を交わしている。『こどもSOS』の受け入れに、桑名市より感謝状が届いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などにて、地域の方に向けて、困った事や介護サービスについて分からない事などがあればいつでも来て下さいと説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月一回運営推進会議を開催している。地域包括支援センター、市役所、近隣の住民の方に参加して頂き、活動報告を行い、参加者の意見をお聞きし、サービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議は、コロナ禍で令和2年5月以降開催できていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない点や困った事があれば、こまめに問い合わせをしたりして協力を得ている。	分からないことや困りごとでは問い合わせをして相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修にて、施設の方針や身体拘束の悪影響などを職員全員が理解し、身体拘束をしないケアを実践。日中は玄関の施錠はしていない。身体拘束廃止委員会にて3ヶ月に1回は会議を行っている。	会社独自の身体拘束に関する指針があり、それに基づいて職員の研修や身体拘束廃止委員会を開催している。職員は身体拘束にあたる不適切なケアについて理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の研修にて、虐待事例等を周知し、施設内での虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名、成年後見人制度を利用されている方がおり、後見人との打ち合わせや日頃の連携を通して、学ぶ機会としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する書類が大変多い為、一度持ち帰って頂き、目を通して頂き、再度施設にて不明な点周知して頂きたい所を説明し署名・捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	広報は原則1ヶ月毎に発行して、家族に状況を報告している。家族からの意見や要望は、来訪時に聞き取ることがほとんどである。	現在家族の面会は禁止となっているが、最近ではライン通話・動画での顔合わせができています。家族からの意見・要望があれば職員間で検討し、できる限り希望に添えるようにしている。	広報『いずみだより』を一新し、継続して毎月家族に届けられるよう期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティング時に意見を交わす。スタッフが個々に事務所に来る事も多い。	職員からの意見・要望は多く、上司が会社に相談して要望等に応えることもある。現在職員からの要望で、乾燥機の購入を打診中である。定期的に管理者が個人面談して個人の意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与等は法人に一任であるが、労働時間は本人の希望の沿うようにしている。個々への役割分担は、適材適所にて配置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の研修の際、職員が困っている事などを取り上げ、学んだり解決したり機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流について、意向としては前向きですが、あまり機会が作れてないのが現状。以前は勉強会などもあったがコロナの影響が少なくないように感じる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居して頂く際は色々な事情から聞けない事も多いので、様子を見ながら少しずつ意向を確認し、安心して暮らせるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や入居の際にご家族のお話を伺い、ご要望やご意向等、話しやすいような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に出来るだけ詳しいお話を伺い、必要とされているサービスを請けられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事は行ってもらう等役割(バイタル記録・食器洗い・水遣り等)を持って生活して頂き一緒に生活している家族のような関係性を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係を密にし、お互いに相談や意向等を話し合える様、コミュニケーションを取り、ご本人と一緒に支えていける様、心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、知人や友達の面会は、規定の時間外も対応し、ゆっくりと過ごして頂けるよう心がけている	コロナ禍で、家族の訪問や今まで続いていたボランティアの訪問もなくなった。馴染みの美容院などに行けなくなったが、理容師の資格がある職員が利用者の髪を切ってくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立はしていないが、高齢者間の人間関係も難しいのが現実。認知症がある訳でさらに複雑である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除の手続きの際に「何かありましたらお気軽に連絡下さい」とお話しさせて頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「あなたの夢を叶えます」プロジェクトを立ち上げ出来る限り夢を叶えて行く。外食や買い物などの希望は随時対応させてもらっている。	日常生活の中でもささやかな夢を持ってもらい、生きる力となるよう支援している。利用者の思いや意向を吸い上げられるよう寄り添って傾聴し、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	朝はゆっくり過ごされていた方にはゆっくり起床して頂いたり、毎日の入浴を欠かさなかった方は毎日入浴(全員基本的には毎日入浴)してもらっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日記録している介護記録・介護日誌にて日々の様子を記録し、職員間で情報共有している。出勤時に申し送りも行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	体調の変化や、精神面の変化などがあり、必要と判断した時はタイムリーにサービス担当者会議を開いている。家族や本人の意向も聞き取るが希望は薄い。	入居時に行うアセスメントに、利用者の状況を見ながら、業務日誌や申し送り時の意見などを参考にモニタリングを行う。ケアプランの更新時にはサービス担当者会議を開き、利用者の現状にあった介護計画を作成しケアに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化は介護記録・業務日誌へ記録。職員間で情報を共有し確認しあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物に行きたい。バレンタインのチョコを買いに行きたい。外食したい等の希望や出来る限りの支援はしている。身体的なニーズが出た時も柔軟に対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ガーデニングセラピーや施設の前にある自動販売機、希望者はショッピングセンターへ買い物に行っています。季節や気温によって散歩などおこなっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望されるかかりつけ医へ定期受診の際には、職員が同行し、近況を報告し、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に以前からのかかりつけ医を継続するか、協力医に診てもらうのかを選択してもらい、協力医には月2回の定期訪問診療を依頼し、訪問看護と連携して終末期可能などところまで診てもらっている。かかりつけ医には家族・職員が同行して介護タクシーで受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に訪問看護師が訪問。体調チェック等行ってくれる。又、体調不良時には相談・主治医との連携を図ってくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、入院先へ最新の介護サマリーを提供させて頂いている。主治医にも定期往診の際に情報を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは法人の指示があるまでは行えないが、「重度化した場合における対応に係る指針」にて書面での取り交わしをしており、家族の希望や本人の希望に沿って最大限の対応をさせて頂く。	終末期を迎えた時、本人・家族の希望に沿った方向で支援している。医療行為が必要な場合には転居し入院となるが、自然に老衰を迎える時には最後まで見守り支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人作成の緊急時対応マニュアルを使用している研修を定期的におこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施、避難経路や誘導の仕方、消火器の使い方の確認を実施。運営推進会議にて災害時の協力についてお願いしている。	年2回消防訓練を実施している。2回のうち1回は消防署立ち合いで行っている。避難経路や誘導、消火器の使用について指導を受けている。	前回の避難訓練を実施した際、消防署から指導を受けたことでもある職員の災害時の役割分担表を作成し、いつ何時でも慌てることなく利用者を守れるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にて、何気ない声掛けや言葉使いが時にはプライバシーの侵害になる事がある。尊厳が守られるような接し方・言葉使いを心がけるようにしている。	日常の何気ない一言で利用者を傷つけることの無いよう、職員間で話し合っただけでケアに当たっている。利用者同士の関係性にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動前に声掛けし、同意を得られるように心がけている。何気ない会話から思いや希望を聞き取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝の時間の定めもなく、出来る方は自分でコーヒーを入れ好きな時に飲んで頂くなど本人にお任せしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服をご自身で選んで頂いており、職員の中に理容師がいる為、本人の希望を聞きながら好みの髪型を楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で食べたい物の希望が聞かれた時は、翌日のメニューを変更して食べて頂いたりしている。片付け等出来る人に参加してもらっている。	調理に長けた職員が献立を考え、食材を業者に発注し、届いた食材で3食とも職員が交替で調理している。地元の旬の食材で温かく美味しい料理を提供できるようにしている。可能な限り利用者に参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下の状態が悪い人には水分にとろみをつけたり、水分が少ない方にはジュースなど好みの物を提供したりしている。介護リーダーが栄養士資格がある為、日々のメニューを考え栄養バランスを考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを自立や介助にて行っている。歯科医・歯科衛生士による往診も希望者は受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	よほどの事が無い限り、オムツの使用はしない。リハビリパンツの使用。定期的な声掛け・誘導を行い自立に向けた支援をしている。	オムツなど全介助の利用者はなく、約半数が自立している。個々の排泄パターンや一日の流れの中で声掛けをしながらトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	麦・イモ類・根菜類などの食材を取り入れた食事を提供したり、水分量の把握を介護記録にて確認し、その都度好みの物を提供したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、毎日入浴して頂いている。時間も本人の希望される場合は希望に沿っている。	基本的には毎日入浴支援することとしているが、利用者の意向を聞きながら延期することもある。一人一人湯を入れ替えて清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は自由に居室で休んで頂いている。夜間眠れない等の訴えがあるときはフロアでお茶を飲んでもらったり、居室内の温度に気を配ったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットチェック、服薬時はチェック表を使用。調剤薬局とは、常に連携が取れており、不明な点などはすぐに相談が出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の水やりや草抜き、食後の片付けなど行って頂いている。コーヒーが好きな方は自由に飲んでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様協力の下、定期的な外泊。介護タクシーを使っての買い物やランチに出かけて頂いている。	コロナ禍で外出支援はできていない。天気のいい日には事業所周辺を散歩したり、駐車場に出て日光浴をしている。家族との外出は控えてもらっているが、禁止はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のお小遣いの一部を用意し、買い物の際などに使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みは基本可能である。ご希望があれば、取次ぎの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は職員・入居者様が掃除をされており、年に2回は、法人指定の清掃業者が入り清掃。	各フロアの中心部分が居間兼食堂になっていて、対面キッチンからは利用者の様子が一望に見え見守りに役立っている。壁には利用者と職員の手作りの貼り絵の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階はソファーに並んでテレビを見たり、自由に庭に出たりする事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は家族やご本人のお好きなようにしてもらっている。床の布団を敷いて寝てもらっている方も見え、テレビやエアロバイク・仏壇など色々置かれてみえます。	居室にはクローゼット・エアコンが設備され、その他の家具は自宅から使い慣れた物を持ち込み、個々に居心地のいい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりがあり、居室には表札、トイレには表示とタイルの色が変えてあり、分かりやすくしている。		